



はじめて見たよ！セミのなぞ

しんかいதாகი
新開 孝 作

しょうねんしゃしんしんぶんしゃ
少年写真新聞社

一生のほとんどを地中で過ごすセミの生態は、わからないことだらけ。アブラゼミは夏のあいだに卵を木の幹に産む。卵のまま冬をこし、翌年の初夏にふ化すると、幼虫は自分から地面に落ちて土の中にもぐりこむ。そして、羽化するまでの数年、ずっと土の中にいる。日本にいるセミは35種類。すむ場所がほぼ決まっていて、町中と自然が多い林の中では、ちがうセミに出会える。

ベテランの昆虫写真家が、日本各地のセミを観察し、そのなぞを探る情報満載の写真絵本。

